

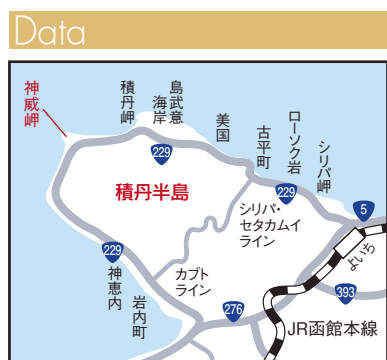


が半島を巡って連なり、泊、兜海岸の崖の中腹には地元網元が苦勞を乗り越え開削した旧道も残る。1996（平成8）年2月に発生した余市町豊浜トンネル崖崩事故ではバスの乗客らが犠牲となり、改めて半島開発の困難さが浮き彫りにされた。同年11月、半島開発上念願の半島一周道路（国道229号）が長大トンネル貫通で開通し、大幅な観光客の入り込みと産業開発が期待されたが、2004（平成16）年9月に発生した台風18号により、強風と高潮で高架橋が流され、再び不通となった。この半島の生活は自然の美の恩恵の反面、厳しさとの戦いの歴史であったといえる。

積丹半島はニシン産業と文化でも名高い。表積

丹と呼ばれる西海岸（余市、美国側）は小樽市へつながり、ニシン漁の機械化や、海上の船同士でニシンを買う「つふ買い」などにより、多くのニシン大尽と文化が育った。余市のシリバ岬周辺の海岸には、当時のニシン番屋が多数残っており、美国漁港裏手の旧漁港には、ニシン大番屋とソーラン節発祥の地碑がある。

一方、岩内漁港から茅沼、泊、兜、盃、神恵内、



●お問い合わせ先
積丹町商工観光課
積丹観光協会

Tel. 0135-44-2111
Tel. 0135-44-3715

高価な袋澗は銀行の抵当になるなど急速に廃れ、崩壊し、北海道庁により一部は漁港に改修された。現存しているものは、土木遺産としての学会評価も高く、今後、ニシン村整備など地域おこしの適材として、間知石練り積みなどの堤体補修、ウンボなどで浚渫、プールやウニ養殖、アザラシの遊び場などの利活用が望まれている。



木下の袋澗（神恵内村）